

## ダンパーフレークの導入(1)

### ーアナログ再生系ー

#### 1. 始めに

インフラノイズ社から、[ターンテーブルアキュライザーTACU-1](#)が発売され、その感想文を送るとダンパーフレークなる返礼品が送られてきました。このものの応用を検討していきます。

#### 2. ダンパーフレークの試聴方法

ダンパーフレークの付属の説明書を見ると、適用箇所の推奨事例や使用に際しての注意事項が事細かに記載されています。

適用箇所については、振動を調整することで音質を向上させるような箇所で、自由度が大きいように書かれていますので、注意事項を守りながら、常用する再生経路から選択していきます。



今回は、適用対象をアナログ再生系とし、カートリッジやアームやフォノイコライザーまでの入力経路に適用してみたいと思います。

アナログ再生系としては LINN LP-12 を選択します。

LP-12→ZANDEN Model 120(バランス入力)→Brooklyn DAC+(Line 入力)→  
TruPhase

カートリッジは MySonic Signature Gold (シェル : MySonic SH-1Rh)、アームは Glanz MH-9Bt、トランスは ZANDEN Model120 の内蔵トランスで、フォノステージはアンバランス/バランス変換コネクタとバランスアナログアキュライザーを介して ZANDEN Model120 へのバランス入力です。

ダンパーフレークの適用箇所は次の候補とします。

カートリッジのシェル

アームのパイプ

アームの支持ポイント

フォノケーブル

バランスアナログアキュライザーへの入力端子

なお、フォノケーブルにはヴォリュームアキュライザーの模造品を貼っていますので、これを除いてダンパーフレーク 2 枚に貼り替えます。

アンバランス/バランス変換コネクタには、フェルトを貼っていますので、これはそのままにします。そして、変換コネクタからバランスアナログアキュライザーへの XLR 入力端子に貼ります。なお、バランスアナログアキュライザーからフォノイコライザーの XLR 入力端子は、貼り換えの作業性が悪いので見送ります。

使用する音源は聴きなれた下記とします。

ドイツグラモフォン MG8333/4

ニコロ・パガニーニ 24 の奇想曲

サルヴァトーレ・アッカード (Vn)

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーベン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel AA-9117・C

ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

再生に際しては TACU-1 も使用し、ZANDEN Model 120 の設定は、これまでの経験を元に選択しています。

### 3. ダンパーフレークの試聴結果

手順としてパガニーニの 24 の奇想曲を再生しながら上記のポイントにダンパーフレーク 1 枚を貼り、その効果を確認していきます。

まずは、カートリッジのシェルとアームのパイプとアームの支持ポイントに貼ってみます。



上記3ヶ所の中ではカートリッジのシェルの場合に一番効果が大きく、擦弦音がリアルになり、余韻と胴鳴りが豊かになります。なお、上記カートリッジのシェルはカートリッジと同じ My Sonic 製のシェルで、上記 GLANZ のアーム内のリード線は炭素繊維の筒の中を通しており、リード線はパイプに直接接触していません。そこでカートリッジのシェルに残した上で、フォノケーブルとバランスアナログアキュライザーへの入力端子に貼ってみます。



上記の2ヶ所では、ともにカートリッジのシェルで感じた効果をさらに上乘せするような効果がありますが、フォノケーブルでは落ち着いたおとなし目の音で、バランスアナログアキュライザーへの入力端子では響きの良さに加えて切れ込みの良さも残っており、とりあえず後者を残すことにします。フォノケーブルでは、ヴォリュームアキュライザーの模造品に戻しておきます。

以上から、効果の大きかったところを選んでダンパーフレークを残し、残りの盤を聴いていきます。

選帝侯のソナタでは、TACU-1に加えて、ダンパーフレークの2ヶ所への適用で、ピアノの響きがこれまでになく、まるでホールで聴いているような豊かな響きで、特に小音量でも音が痩せません。

ワルキューレ全曲では、選帝侯のソナタと同様、全般的に響きが豊かになり、歌手達の声のステージの残響がしっかり聴き取れ、金管のとげとげしさがなく、結果としてステージ感が向上しています。

メサイアでは、合唱やソリストの声は、広いステージに響きわたり、弦楽合奏は柔らかくディテールの再現もしっかりでており、金管の響きも煌びやかです。また、全体にソリスト、合唱、オーケストラのパートの位置関係もしっかり把握できます。

#### 4. まとめ

アナログ再生系におけるダンパーフレークの効果調べ、効果の大きい箇所を絞りこみました。最終的に選択した2ヶ所への適用の結果、TACU-1の効果とも調和し、様変わりしていることが確認できました。

以上